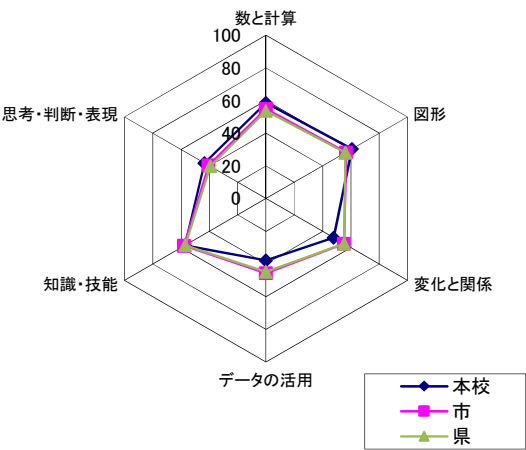


宇都宮市立錦小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.6	54.9	53.7
	図形	60.7	56.6	56.1
	変化と関係	47.8	55.1	55.2
	データの活用	37.8	45.5	44.8
観点	知識・技能	57.3	57.8	57.2
	思考・判断・表現	43.5	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、県や市の正答率よりやや高い。 ○小数のしくみを理解し、何倍かを選ぶ問題の正答率は82.2%で、県の正答率を12.6ポイント上回った。 ●小数のしくみを理解し、大きさを比べる問題の正答率は22.2%で、県の正答率を12.5ポイント下回った。	・小数の概念について理解を深めていく学習において、短答式よりも選択式の回答では高い正答率が見られた。授業では、数直線を利用するなど、指導法や教材の工夫・改善を図るとともに、自分の考えをしっかりともち、自信をもって取り組むように支援していく。
図形	・平均正答率は、県や市の正答率よりやや高い。 ○立方体の展開図として正しくないものを選択する問題の正答率は84.4%で、県の正答率を14.0ポイント上回った。 ●平行四辺形の作図をする問題の正答率は33.3%で、県の正答率を12.4ポイント下回った。	・分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、図形の性質を理解し、正しく作図できるよう指導していく。
変化と関係	・平均正答率は、県や市の正答率より低い。 ●30円を1と見たとき、90円の大きさを答える問題の正答率は55.6%で、県の正答率を12.7ポイント下回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は73.3%で、県の正答率を7.1ポイント下回っている。	・2つの数量の関係に着目して問題に取り組む際、それらの数量について児童が意欲的に問題に取り組めるよう、身の回りの事象における数値を用いるようにする。 ・伴って変わる2つの量の規則性に気付くようにし、表や式、グラフ等と関連付けながら考える活動を大切にしてい
データの活用	・平均正答率は、県や市の正答率より低い。 ●折れ線グラフから必要なことを読み取る問題の正答率も、県の正答率より低い。二次元表を用いて条件にあてはまる人数が何の数字かを答える問題では、正答率が51.1%で、県の正答率を16.4ポイント下回った。さらに、グラフから読み取った数値を示し、変化の様子を説明する問題では、無回答率が66.7%で課題が見られる。	・表やグラフを用いた様々な練習問題に取り組ませたり、答えを導くために必要な部分の見付け方やその手順を説明する機会を多く設けたりして、データ活用能力の育成を図る。 ・表やグラフの学習では、データの特徴や傾向を多面的に把握したり、事象を注意深く考察したりする等、問題解決の過程を意識するよう指導する。また様々な活動において、身の回りの事象をデータから捉え、問題解決場面に生かす活動を取り入れ、日頃より関心をもたせる指導をしていく。